

微風

横臥する俺の目の前に咲く白い花は
微風に震えて微笑している
ここはなだらかな山の斜面
俺の耳は笛となって風のメロディーを奏で
お前はそれにうっとり耳を傾けて
目を閉じて風に髪をなびかせている
何と可愛らしい、そして哀しげなお前だろう
俺がお前のために涙を流しても
お前はきっと微笑したままに揺れているだろう
微風がいかに大きな男かをお前はすっかり見知っている
俺は、その大きな心に憧れるお前が好きだ
そしてそういうお前が何よりも哀しい

(1982.6.5)